

JIA 第 68 回アーバントリップ見学会のご報告

実施日：2012 年 2 月 20 日(月)

テーマ：「これからの建築再生のあり方についての事例を訪ねて」

見学先：「千代田区立麹町中学校」

「千代田区立日比谷図書館」

「千代田区立麹町中学校」

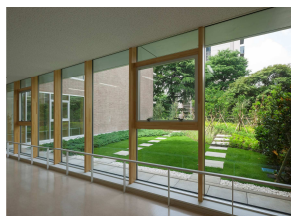
特別講師：尾形 光男氏（日本設計）

渡邊 忍氏（日本設計）

松本 隆志氏（日本設計）



外観



2階屋上庭園



5階廊下

「千代田区立日比谷図書館」

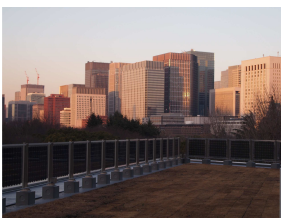
特別講師：山本 幸正氏（保坂陽一郎建築研究所）



外観



開架書架



屋上より

今回のアーバントリップは、都市中心部で昭和 30 年代前後の施設の建替え計画を見学し、建物再生を体感するプログラム。ひとつは中学校の改築計画、もうひとつは図書館の大規模改修。私事であるが、現在、学校の設計監理をしており、また過去に渋谷公会堂の改修の設計監理を担当した身としては、大変関心のある見学となった。

■千代田区立麹町中学校

このプロジェクトは、自分の所属する日本設計の作品。プロポーザル当初、様々な校舎配置の検証をしていたようだが、限られた敷地の中で高密度でかつコンパクトに施設は配置されていた。グランド走路確保、建替えまで既存体育館の利用、学校ならではの条件を考慮しながら、東西に伸びる敷地形状を活かし、校門から昇降口へ抜ける構成となっている。

目を見張ったのは、様々な環境技術の導入だろう。いまどき、計画に盛り込むことは必須だが、予算とのバランスで限定されていくことも多い。設計時点で、標準仕様と比べ CO2 排出量 40%削減を目標にして計画したという。統廃合や耐震改修など、学校の建替えや改修はこれからも多いと思うが、311 以降のエネルギー問題を考えると、より具体的に取り組むべき課題と感じた。

■千代田区立日比谷図書文化館

学生の頃に都立図書館をよく利用していたので、改修の様子を新旧比べて体感することができた。施設は 1957 年に竣工、東京都から千代田区への移管に伴い改修された。改修計画では、既存のイメージを大きく変える場合と、オリジナルを尊重して行う場合がある。渋谷公会堂は興行も考慮して前者であったが、日比谷の場合は後者となっていた。二つともオリジナルの設計者が建築モード研究所だったのだが、違う運命を経過していて興味深い。

既存外装の擬石を高圧洗浄しオリジナルに近い色に塗装したり、遮光に使っていた障子を再生したり。既存はスチールサッシで、改修はアルミサッシのカバー工法によるものだが、可能な限り見付を細くし、既存の割付を踏襲するなど、竣工時の状態に近づけたとのこと。改修前は汚れて感じなかった淡緑色の外装の色について、公園の緑との関係を考慮して当初設計者が考えていたのだらうと想像するのも、改修設計での面白さである。

改修の悩ましい項目に、すでに補強が済んでいる耐震補強との取り合いがある。日比谷でも 2002 年に実施した耐震ブレースが施されていたが、ブレース位置とガラス開口に隙間があったため、公園の緑を見渡す豊かな縁側空間のような閲覧スペースとして再生されており、心憎い演出が施されていた。

時間の経過から風景が変わったり、表情が変わっていくこともあるが、建築を再生していく上で、どこかに必ず過去や歴史を感じられる設えを生み出していく、そういった配慮が大切なのであろう。徒歩移動で皇居周辺の風景を眺め、すっかり高層ビルで取り囲まれてしまった様子を見ると改めて感じた。